

カンパニーデラシネラ

ねん おのでら しゅうじ ちゅうしん せつりつ
2008年、小野寺修二を中心に設立。マイムをベースにした身体性に富んだ独自の演出は、世代を越えて注目を集めている。
こくない かつどう かいがいえんげきさい さんかなだたすう がっこうじゅんかいとうえん こうこう げいじゅつかんしょうかい じせだい
る。国内での活動のほか、海外演劇祭への参加等多数。また、学校巡回公演や高校の芸術鑑賞会など次世代へのアプローチ
せつきょくてき と く やがい びじゅつかん さんか おお
にも積極的に取り組んでいる。野外や美術館、アートフェスティバルなどへの参加も多い。



さつえい すずきじょうじ
撮影：鈴木穰蔵

小野寺修二／演出家・カンパニーデラシネラ主宰

にほん けんきゅうじょ ヘ ねん ねん みず あぶら かつどう
日本マイム研究所を経て、95年～06年、パフォーマンスシアター水と油にて活動。その後、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として1年間フランスに滞在。帰国後、カンパニーデラシネラを設立。15年度には文化庁文化交流使としてタイやベトナムでワークショップと作品発表を行った。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。

〈近年の主な演出作品〉

へんしん ねん ねん しずおかけんぶたいげいじゅつ くに ねん
『変身』(2014年、2017年/静岡県舞台芸術センター)、『ふしぎの国のアリス』(2017年/新国立劇場他)、ベトナム人キャストとのコラボレーション『Without Signal! (信号がない!)』(2017年/KAAT神奈川芸術劇場)、現代能楽集IX『竹取』(2018/世田谷シアタートラム他)、『どこまでも世界』(2020/KAAT神奈川芸術劇場)など。

知ってますか？

がっ にち こくさいおんがく ひ
～10月1日は「国際音楽の日」です～

ねん ようほう せつりつ こくさいおんがくひょうぎかい かいぎ よくねん
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の
ねん まいとし がっ にち せかい ひとびと おんがく つう たが なかよ こうりゅう
1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を
ふか こうさいおんがく ひ
深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
にほん ねん まいとし がっ にち こくさいおんがく ひ さだ
日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

カンパニーデラシネラ ホームページ

<https://derashinera.jp>



カンパニーデラシネラ

< 演 劇 公 演 >

「文化芸術による子供の育成事業 —巡回公演事業—」

わ くに いちりゅう ぶんかげいじゅつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうなど こうえん こども すぐ ぶたいげいじゅつ かんしょう きかい え こども
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たち

はっそうりよく のうりよく いくせい しょうらい げいじゅつか いくせい こくみん げいじゅつかんしょうのうりよく こうじょう もくてき
の発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

じぜん こども じつえんしどうまた かんしょうしどう おこな じつえん こども さんか
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



カンパニーデラシネラの ドン・キホーテ

原作：ミゲル・デ・セルバンテス

演出：小野寺 修二

美術：石黒 猛

テキスト：山口 茜

出演：藤田桃子、大庭裕介、崎山莉奈、零境、伊吹卓光、小野寺 修二

登場人物・用語の解説

ドン・キホーテ

スペインのラ・マンチャに住んでいる老人。
騎士道物語に夢中になりすぎ、とうとう自分を騎士だと思い込んでしまう。

サンチョ・パンサ

ドン・キホーテの従者。

ロシナンテ

ドン・キホーテの飼っている痩せ馬。

ドルシネア

ドン・キホーテが作り上げた理想の姫。

カラスコ

村の学生。ドン・キホーテを村へ連れて帰るために騎士に変装する。

あらすじ

スペインのラ・マンチャに住む老人ドン・キホーテは、大好きな騎士道物語を買うために財産を全て売り払い、周りの人に呆れられていました。

ある日ドン・キホーテは「自分は本に出てくる騎士であり、世の中を正すべきだ」と思い込み、お供のサンチョ・パンサ、愛馬ロシナンテとともに故郷を旅立ちます。
空想と現実が入り混じる二人の奇想天外な旅の、はじまりはじまり…

鑑賞の手引き

デラシネラが上演する『ドン・キホーテ』には、いろいろな身体の動きや不思議な道具がたくさん出てきます。また、普段身の回りにある日用品や布を使って、思いもよらないものが見えてくるかもしれません。原作は遠い昔の外国を舞台にしたお話ですが、皆さんの目で様々なことを想像しながら見ることによって、身近に感じてもらいたいです。

この『ドン・キホーテ』は、舞台と客席の仕切りもありません。観客である皆さんも、是非登場人物の一人として、舞台に参加してください。

デラシネラの『ドン・キホーテ』、どうぞお楽しみに！

その他の登場人物

掃除夫、ドン・キホーテの姪、司祭、審判など…

ミゲル・デ・セルバンテス(1547-1616)

『ドン・キホーテ』の作者として、世界的に有名なスペインを代表する作家。後世の作家たちに多くの影響を与えている。

騎士道物語

中世ヨーロッパで流行した、勇敢な騎士が冒険するお話。